

トッククラスに聞く

低炭素時代の経営戦略

エネルギーアドバンス代表取締役社長 三浦千太郎氏

東京から分社化して年々目覚ましい発展を遂げているエネルギーアドバンス(ENAC)は、事業規模も事業内容もともに急拡大を続けてきた。エネルギーサービスが地冷エネルギー(ES)という事業を上回るまでになり、08年度は売上げが約700億円になり、上場した。08年度は売上げが約400億円がオンサイトのエネルギーサービスとなる見込みです。

【本紙】これは東京ガス本体の事業としてはできなかったのでしょうか。

【三浦】東京ガスの戦略そのものがエネルギーサービスにシフトしてきまして、そのとき、エネルギーサービスプロバイダ(ES)として分社化、誕生したエネルギーアドバンスが機動的に動くことでの戦略が成功したと思います。

東京ガスの100%子会社ですから、ガスの振返りができただけです。

より進化した新生ENACとしてダッシュ

「天然ガスCO2でグリーンジョブ」蒸気の良さもPRしベストミックスを提案

【本紙】ENACは、現在、低炭素時代の経営戦略として、天然ガスCO2でグリーンジョブを推進している。蒸気の良さもPRし、ベストミックスを提案している。これは、東京ガスから分社化したエネルギーアドバンスが機動的に動くことでの戦略が成功したと思います。

【本紙】これは東京ガス本体の事業としてはできなかったのでしょうか。

【三浦】東京ガスの戦略そのものがエネルギーサービスにシフトしてきまして、そのとき、エネルギーサービスプロバイダ(ES)として分社化、誕生したエネルギーアドバンスが機動的に動くことでの戦略が成功したと思います。



三浦千太郎氏

【本紙】ENACは、現在、低炭素時代の経営戦略として、天然ガスCO2でグリーンジョブを推進している。蒸気の良さもPRし、ベストミックスを提案している。これは、東京ガスから分社化したエネルギーアドバンスが機動的に動くことでの戦略が成功したと思います。

【本紙】これは東京ガス本体の事業としてはできなかったのでしょうか。

【三浦】東京ガスの戦略そのものがエネルギーサービスにシフトしてきまして、そのとき、エネルギーサービスプロバイダ(ES)として分社化、誕生したエネルギーアドバンスが機動的に動くことでの戦略が成功したと思います。

カーボンのマネジメント入門

日本スマートエネジー代表取締役社長 大串 卓矢

【本紙】カーボンのマネジメント入門。大串 卓矢氏による解説。カーボンのマネジメントとは、企業が自らの事業活動に伴って発生する温室効果ガスの排出量を削減し、環境価値を高めることを指す。これは、企業が持続可能な成長を遂げるための重要な戦略である。

【本紙】カーボンのマネジメントとは、企業が自らの事業活動に伴って発生する温室効果ガスの排出量を削減し、環境価値を高めることを指す。これは、企業が持続可能な成長を遂げるための重要な戦略である。

クレジットの環境価値と税務問題

【本紙】クレジットの環境価値と税務問題。クレジットとは、企業が削減した温室効果ガスの排出量を、他の企業が削減できない分をカバーするために取引される権利である。これは、企業が環境価値を高めるための重要な手段である。

【本紙】クレジットの環境価値と税務問題。クレジットとは、企業が削減した温室効果ガスの排出量を、他の企業が削減できない分をカバーするために取引される権利である。これは、企業が環境価値を高めるための重要な手段である。

【本紙】クレジットの環境価値と税務問題。クレジットとは、企業が削減した温室効果ガスの排出量を、他の企業が削減できない分をカバーするために取引される権利である。これは、企業が環境価値を高めるための重要な手段である。

【本紙】クレジットの環境価値と税務問題。クレジットとは、企業が削減した温室効果ガスの排出量を、他の企業が削減できない分をカバーするために取引される権利である。これは、企業が環境価値を高めるための重要な手段である。

【本紙】クレジットの環境価値と税務問題。クレジットとは、企業が削減した温室効果ガスの排出量を、他の企業が削減できない分をカバーするために取引される権利である。これは、企業が環境価値を高めるための重要な手段である。